

けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2011の開催

12月1日(木)に、けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム 2011(けいはんなプラザ、京都府精華町)を開催し、けいはんな情報通信オープンラボのPR および研究発表を行いました。

シンポジウムは、「新しい日本の姿に向けた情報通信の役割」というテーマのもと、けいはんなオープンラボ研究推進協議会の取り組みや研究成果の報告・広報に加えて、災害時の情報通信ネットワークの課題やニーズ、震災復興に向けての情報通信技術の役割についての調査・検討、東北地域の産学官連携関係者との交流・情報交換を目的に、100名の方の参加を得ておこなわれました。

基調講演として、国際高等研究所 尾池和夫所長より地震のメカニズムから地球表層の多様性や文化まで含めたお話をいただきました。東北大 青木孝文教授は画像認識技術を用いて歯の治療痕から犠牲者の身元確認をおこなっておられ、その精力的な活動のお話には来場者の胸をうつものがありました。NTT 東日本 南川夏雄取締役東北復興推進室長からは、通信網被災の状況と復興への取り組みをお話いただきました。次に三菱電機情報技術総合研究所 吉田聡太研究員による光ネットワーク制御技術についての研究発表がおこなわれ、その後、「災害対応の革新に向けた情報通信技術」と題して、NICT 木俣豊研究所長をチェアに、京大 井澤一朗教授、国立保健医療科学院 奥村貴史特命上席主任研究官、東大 荒牧英治講師によるパネルディスカッションがおこなわれ、通信インフラの被災と情報利活用の課題について、来場者も含め熱く実りある討論がなされました。また、協議会の活動をパネル展示とデモで紹介しました。

震災における情報通信技術を扱ったものとして関西ではユニークなシンポジウムとなり、来場者からもたいへん好評を得ました。震災の実体験に基づいた講演に迫力があつた、災害時の通信機能の確保と情報利活用の重要性を認識した、多くの方にぜひ広く知ってほしい内容である、など感想をいただきました。

